

世界遺産 輝き一層

平泉町の平泉中(青柳清隆校長、生徒175人)の3年生63人は7日、中尊寺や毛越寺で使い終わったろうそくを再利用した「世界遺産キャンドル」や夢あかりの制作に取り組んだ。仕上げたキャンドルなどは、町内で行われるイベントで点灯される。生徒の若い感性や想像力を、世界遺産のまちの盛り上げにつなげる取り組みが広がっている。

平泉中生

NPO法人みんなであつくる平泉や平泉夢あかりの会などの会員でつくる世界遺産キャンドルプロジェクト実行委(小野寺郁夫委員長)の7人が指導。牛乳パックを使った夢あかりのデザイン考案や、色とりどりのろうそくを溶かしたキャンドル作りに熱中した。

再生キャンドル制作 若い感性 まち盛り上げ



中尊寺と毛越寺で使った廃ろうそくを再利用し、カラフルなキャンドルを作る平泉中の生徒

性化に自分たちが関わっていることや地域のつながりを子どもたちに実感してほしい」と思いを込める。生徒たちによる制作活動は13、15日も行われる。完成したキャンドルや夢あかりは、8月16日に毛越寺で行われる「浄土庭園法灯会」で並べられる。また、11月5日に平泉小で行う「世界遺産学習全国サミットinひらいずみ」の来場者へのお土産にするアイデアも検討されている。

廃ろうそくを生かしたキャンドルづくりは2014年から始まった。町民有志

が色付けや成形し、お盆の時期などにももってきた

は「見た人が温かい気持ちになってくれればうれし

い」と期待する。同実行委メンバーの野呂美帆さん(42)は「地元の活